



年 組 名前

道新で ワークシート

中富良野町 ごみ分別LINEで案内 ICT活用 行政サービス向上へ

【中富良野】無料通信アプリLINE（ライン）の自動返信機能を活用し、町が公式アカウントでごみの分別方法を案内している。捨て方が分からないごみの単語を「トーク」画面に打ち込むと、分別の種類や捨て方が示される。町は本年度から、会員制交流サイト（SNS）に関する勉強会を始めるなど、情報通信技術（ICT）の利活用に積極的に取り組んでいる。今後も行政サービスの向上を図っていく方針だ。

（宮木友美子）

町が発行している「平成28年度改訂版なかふらのごみ・資源物分別手引き」に掲載された単語に反応し、適切な分別方法が提示される。例えば「クレヨン」と入力すれば「埋め立てごみです」と、即座に返信が来る。また、ごみの収集日も示し、「埋め立てごみ」と入力すると「毎週月曜日、毎週土曜日（第2土曜日は除く）」などといった返事が届く。

富良野5市町村でのごみ分別方法の案内では、富良野市が無料アプリ「ごみナビ」を配信している。占冠村のラインアカウントも自

動返信機能を使って「ごみ」と打つと、ごみの回収日を示すが、ごみの単語ごとに捨て方を案内する機能はない。

中富良野町が回収するごみは12種類にも分かれており複雑だ。約1300語の登録作業を行った総務課の三上美佳さん(26)は「今まで、分別手引きで単語を探していた手間が少しでも楽になってほしい」と話す。

町はICTの活用を進めるため、全小中学生にタブレット端末を配布し、2021年度末までに町内全域で光回線の整備を完了させる。本年度は行政サービ

スのICT活用についても、会員制交流サイト（SNS）に詳しい町職員を集めて勉強会を実施。その時の意見を元に、ラインとフェイスブックの公式アカウントを開設し、9月1日から本格稼働させている。

公式アカウントでは、イベントや町の事業も紹介する。7日からは、ラインアカウントで第20回花壇コンクールの町民投票も実施。

寺島浩樹総務課長は「SNSをはじめ、ICTを地域の魅力と情報の発信に活用し、行政サービスの向上につなげたい」と話している。

2020年10月7日 北海道新聞朝刊地方（旭川・上川） 16ページ（記事は再編集しています）

- ①中富良野町では、無料通信アプリLINE（ライン）を使って、どのようなことを案内していますか。
- ②中富良野町では、情報通信技術（ICT）の利活用を進めるために、どのような取り組みを行っていますか。
- ③情報通信技術（ICT）は、暮らしのどのような場面で使われていますか。教科書から探してみましよう。